



Petri Club

季題・夏の被写体……写 楽 齋
素材と表現……宇野木 敏

写真と動感……大東 元
短篇・高原……関 敏夫

特集
ペトリクラブ一周年記念写真展

7

ペトリクラブ



季題 写楽齋

季題というと、その季節折々の変化、つまり特色のある季節が主題として考えられるのは当然だが、夏の被写体となると、被写体が具体的なものだけに、それに常識としてもすぐに海、山、川と、夏の自然や気象とそれにかわりのあるものが想われてくる。それは、写真雑誌の季節を主題にした写真や解説にみられるように、年々歳々さして変遷のない蔵事記の繰り返しのように、実はそこに現わされている季節には、やはり新鮮な息吹きが感じられるし、何年もそうした被写体を手がけていながら、またついうかうかと同じようなものを写してしまうことが多い。

写真の愉しみは、そのような和楽の中での何のこだわりもない、何のつくろいもない素直な形のままのものでありたいものだが、それがこの頃のように実利をとまなうように考えられてきて、何々のねらい方、何々の作面のコツはまだしも、懸賞写真入選のコツなど

となると、写真を撮ることが賞品をもらい、賞金を得るための手段のようで、それも一人で何十点何百点、あるいは何人かが一緒になつて各方面へ多数の集団応募もしかねないと聞くにいたつては、写真のころからの愉しみを物慾化したようで寒心にたえない。

もともと写真は、多くのアマチュアにとつては折々の感興のおもむくままに自由に素直に写すレクレーションの筈だし、上達を希うこともそうした目的のためのものでありたいところで季題、夏の被写体だが、これもそのような考えからプロ写真家のモード、風景、スナップ写真などもむろん作画の上の参考にはされようが、それにこだわらず、自分の見たもの感じたものをそのままに、自由奔放に写してみたらどうだろうか。そうしていくうちに表現法も自然に体得されるものといえよう。

前のような考え方から夏の被写体进行と 同じ山にしても、山岳写真にあるような奇峯、マッターホルンやエベレストの巨大なスケールやその山容にとられず、夏雲の浮いている連峯を背景にした山で親しくなつた岳人たちの山を愛する心情のあらわれた表情もよからうし、また特に目立つ高山植物の群落や昆

虫たちの夏のいとなみをとらえるのも一法ではなからうか。それはまた、川や海岸についてもいえることで、川やその流域であれば梅雨を過ぎて陽照りがつき河床の浮き出た中洲にあそぶ子供たちや、灌漑におわれている農夫、海浜なら砂浜での開放感のある男女の裸形、飛沫をあげながら浮袋や筏にたわむれる子供たち、忙しいボート屋さん、黒ん坊のふざけた身ぶりE・T・C。また街ならすつかり夏の明稚をした街頭や冷い飲料店での膚もあらわな女性たち、また場末の露路にみられる金魚屋、夕立にけふる街並、その他避暑地、バスや列車内、駅頭、祭礼などにみられる暑熱が感じられ、またそれを避ける姿などはまったく隙隙のないもので、それを夏のアルバムに残し、知友たちに贈り、会心の作をコンテストに送つてひそかにその発表されるのを待つのも、写真を撮る愉しむものだけが知るよるこびではなからうか。

夏の被写体



アパート近く

後藤種吉 ペトリスーパー

樹

宇野木 敏 ペトリフレックス

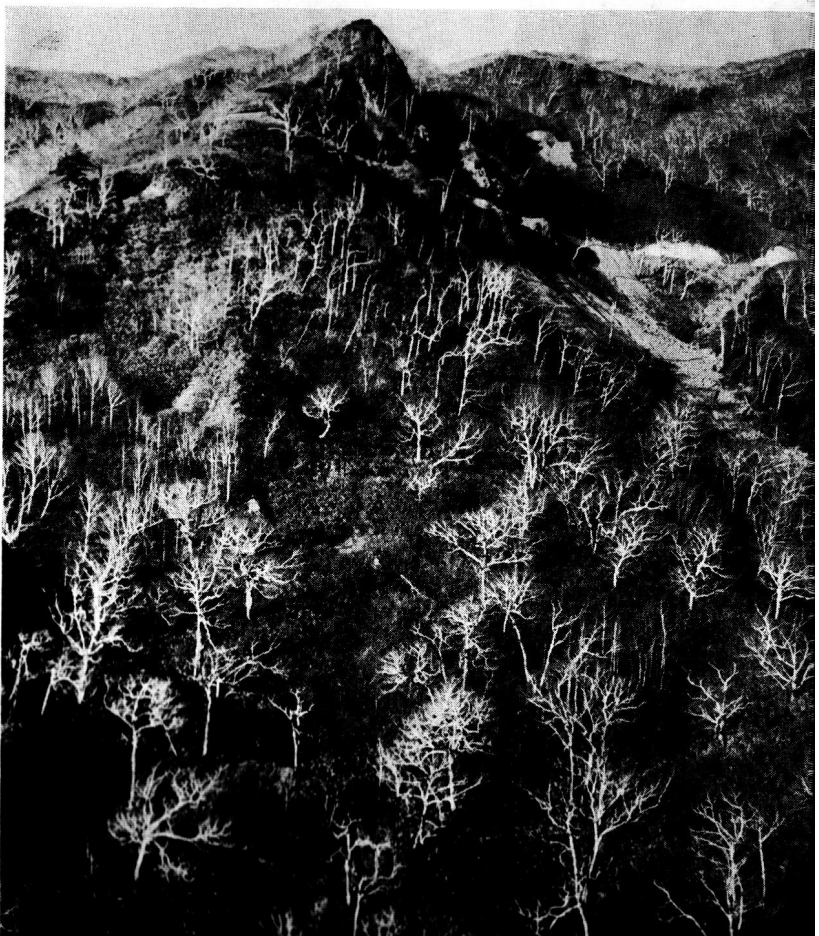


上 京

田 辺 良 雄 ペトリ

特徴のある陽蔽の強いハイライトと、その蔭からのぞいている人物の姿態とで、店先での所作がよくうかがわれる。このシャッター・チャンスのうまさ、一面作者の忍耐にもよるといえよう。

店頭スナップ 小島 真(東京)ペトリレフ



白樺

塚田 恒由(横浜)

俯瞰でパターン化された山嶺の美しさは格別。白樺の向日性や風圧でのさまざまな形がそれぞれの表情で白く浮いてみえるのも、カメラ・ボディションと素材の異色なことからばかりでなく、やはり具眼の賜ではなからうか。

寫眞と動感

大 東 元

この頃の雑誌に「動体スナップ」とか「動体撮影」という見出しの技術記事がよく見かけられるが、このことはただスナップ時代の現出を示すばかりでなく、動体とスナップとの不可分の関係をよく現わすものだし、またもともとスナップ・ショットが動体の瞬間撮影を意味しているにもかかわらず、その動体の内容や範囲が近來次第に多面多岐にわたるようになって、その中で最も動きの速いものの撮影や特に動感を強調するために必要なスナップ・ショットの技術解説が要求されていることを物語るものといえよう。

しかし、ここで述べる事柄は、高速撮影のような一般のスピーディーなものの瞬間を記録する撮影技術でなく、どうすれば動感の面白さが内容として有効にあらわれ、またその内容はどのような撮影技術であらわされるかということが主眼であつて、カメラや感材

の進歩した今日被写体に対して四十五度の角度から写すようにとか、絞りを開けて速いシャッターを切るといふような撮影技術の常識にとられず、あくまで内容をあらわすための表現手段の立場から、新しい写真の「動感表現」について実験的に触れてみたいと思ふ元來、物は静止しているようでも、厳密に言えば実は物理的には自動的にも他動的にもわずかながら動きつつあることが多いわけだが、ここではそうした意味からでなく、肉眼で静止していると見られる物の中に、それと関連のある人間の生活や雰囲気を感じさせる或る動きを見出すことが作画や観賞の立場からの、いわゆるスタイル・ライブ(静物)として写真にもかなり多く採り上げられて来ている。しかし、これはあくまでも通念としては静止した物の或る状態であつて、その物自体の動きは全く見られないのはもちろんだ

が、その状態が意識的なカメラブレや引伸しの際のデフォルメーションで、いかにも動いているような表現の形がとられれば、それはやはり動体そのものの動感をあらわすものとなつて、ベスト単主時代にはこの手法がさかんに用いられ、この種の表現法が今日の新しい写真に発展する一つの素因になつていゝことも認めないわけにはいかないのではなからうか。それは、今日でこそ静物の動感表現による主観的な見方はなくなつたようであるが、動体のこれに似通う表現は依然として多く用いられていて、近代写真の一分野を劃していることは疑いを容れないものがある。

そこで、以上のような時代を閲した現代の新しい動感表現の實際を考へてみると、その応用は非常に広く、たとえば都会の屋上から見られるおびただしい自動車群にしても、それをスロー・シャッターでとらえれば、停車したもののや緩速度の自動車はほとんど静止した状態に止まるのにひきかえて、速度の速いものはそれぞれの速度に応じた動きのあるブレた形を示すし、これは又被写体との距離にも支配されるので、そのブレの程度を撮影の瞬間に見極めることに習熟すればなかなか興

趣のあるもので、それとは別の被写体の進行方向に向つて行かう追ひ写しとともに動感の主観的表現として今後に期待されるものは至つて大であるといえよう。

以上のように、写真に現わされる動感は、カメラのメカニズム独特のものであるが、この表現の独自性は往々にして単なる興味からの濫用におちいりがちで、そのために主題を不分明にすることもあるので、被写体の一部のブレが全体として有効かどうかを素速く見極めることが肝要と思われる。

たとえば、溪流を写すにしても、その急湍を現わすためにスロー・シャッターを用いて効果をあげるつもりなのが、岩石の遠近感を加味した配置や、それらのトーン・パリューがおろそかになつては急湍の様式的な構成に破綻を生じよう。又、交叉点に佇む人物を写すにしても、続々と駆け抜ける自動車やオートバイの流動感のみに眼をうばわれて、肝腎の人物の表情や姿態への注意力が散漫になつては主客顛倒になつて主題を見失うことになるおそれがあるので、充分全体の関係位置や状況に注意して、動感が動感として全体の中に生かされるよう沈着にしかも果敢に撮影すべきではなからうか。

材 一 現 一 表

(6)

敏 野 木 宇

虚構と真実

よく作画意図という言葉が使われていますが、これは字義通り作られた写真や作ろうとする写真の作者の目的性を指すもので、内容の上からいえば、何に素材をもとめ、何に主題を置こうとしたかということになりましょう。そして、もう一步そこから突き進んで考えてみますと、作画意図がはつきりしないということは、前の意味からいつて素材は先ず措いて主題がはつきりしないということと同義語と思われ、作画意図というアイマイな言葉も次第にはつきりしてきます。

ですから、作画上の目的性を明確に示すためにはアイディアによく合致した素材であることはもちろん、しかもそれが観る人々にはつきりした主題として共感されるものでなければならず、それが先ずもつて実作としての価値の定まるころだといえましょう。この場合、アイディアそのものについての問題もありますが、もともとアイディアは表現にい

要するに、写真での動感表現はスナップ撮影技術の二法として、その研究はまだ今後に大きく残されているわけだし、これは又逆にいままで着目されなかつた素材の発見の緒口ともなるので、動感表現の方法と目的とは絶えず因果関係をもつた発展性のある新分野だといえよう。

試みに、これまでの戸外人物のスナップについて考えてみても、夕刻の街路にあつた大きく行き交う人々の群をモチーフにする場合、先ずその中で特徴のある人物の姿態をとらえることはもちろんだが、画面に現わされる背景の効果や関係の効果から、同時に他の多くの人物の動きをF一乃至二級の明るいレンズで完全に瞬間的に固定させるか或は前の説明のように動感表現のためにスロー・シャッターにし、それをどの程度にブラすかということは、その場合の作者の作画目的によつてちがつては来るが、若しブラすことが夕刻の街路にふさわしいのであればシャッタースピード、歩速、距離、明暗、姿態などをよく考えて動感表現上最も適当と思われる露出や角度を突嗟の間に決めなければならぬ。これは実技としては非常に困難なようでも撮影に当つて慎重であり、結果について批判的で

たるまでの主体的な衝動とみられるもので、表現を形造る前の作者のこころの在り方は、主題に適切な素材を得てはじめて外に向つて発現されるものだといふ考え方からいえば、価値判断の尺度はやはり作られたその写真の主題が観る人々にどのように共感されるかということが第一義で、作画意図がはつきりしている様でも、結果からいつて決していつても作者の目的性を充分にそなえたものばかりではないことも自から立証されるわけですから作画意図はただ単に被写体にもとめた主題をはつきりと現わすものでなければならぬばかりでなく、深く強い共感をあたえ、創意のある、そして、写真にとつてもつとも大切な真実感のあるものでなければならぬことにならざると思われまふ。

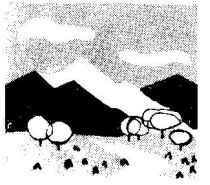
これは、逆にいえば最も真実性のあるものこそ、最も観る人々に共感をあたえるものだともいえるわけです。つまり、作画は主体的にアイディアが先駆するとならないにかかわらず、被写体として厳然と実在するものの中に特徴的な真実性のある或る意味を主題として見出すことで第一の目的が果されると考えられるわけで、これは次の秩序のある様式のもたらす形の意味、いわゆる造形性、それに

あれば手易いとはいえないまでも結極速写の運用に過ぎないので、技術の習得はさほどの苦心は要らないと思われる。ただし、その一応習得した技術でさまざまな条件の下に適確に、そして最良の効果をあげようとするならばスナップに限らず当然他の分野の場合と同じく困難さは更に困難さを加え同時に成功したと思われるよるこびはまた一入だと思われる。

次にブレによる動感表現の画面効果について考えてみると、これはそのブレた形の異常さが先ず観る人々の視覚的な観入の契機になるろうし、又そこには被写体の時間的な経過がはつきりと示されているので、同一被写体にしても追ひ写しでの瞬間を完全に固定化したものとちがつて、人々のイメージをたすけるのに役立つ、主観的な表現であつてしかも客観的に受けとられる妥当性のある手法といえるのではないかと思われる。むしろ、この表現手段は、写真では映画とちがつて端的な一面面或は多面的な組写真でのやや連続的な感情持続しか図れないと思われるが、又その反面映画とは異質な、しかも写真のみに課されていると信じられるリアリティーへつながる形式的効果は合理的な新しいデフォルメーションとして受け取られないものだらうか。

社会性や生活の現実感を基調とする考え方の社会的現実性というようなイズムと共に主要なしかも写真独自の基本的な問題点といえましよう。

いま、この写真の二つの潮流とみられているものうち、前者の造形性を基調にしたものについて考えてみますと、それが被写体として視覚的に実在するものを対象にしているにもかかわらず、次第にその視界を離れ、抽象化されていつて、いわゆる主観的な表現の形をとつたアブストラクトのように、画面にはまつたくそのものの形が見られない非対象性のものにしても、その写真から受けるイメージが、はつきりと心象としての情感をわれわれにもたらすものであれば表現の方法や現わされているものの形はちがつても、具象的なものでなくとも、やはり実在する被写体を媒体とした真実性のあるものといえましよう。後者の場合でも、実際はその人物が演出撮影であつても、演技が演技として感じられず、実感として真実性を失わないものであれば、その被写体は虚構(フィクション)の素材にちがひありませんが、映画や演劇や小説の場合と同じように作られたものでありながら写真の独自性と考えられる真実性を表現的に解決し得たものといえましよう。



高原

関敏夫

(一) 加米良君がへきあ、うまくいつてるか知ら？とおもいはじめてから、へなあに、うまくいつてるさ」と、不安な自分にい間かされるようになるまでにはかなりの時間が経った。

それは、写した実感がまだ何一つあらわれて来ないことと、二度とのぞめない機会だったとおもっての落着けない気分からだった。なるほど、彼にしてみればかけがえない写真だったし、その不安はMQやハイホーを注意深く調査し終り押入暗室の準備がやっとすんだ後までもつづいていた。つまり、加米良君はこんどの撮影には自信がなかったし、それを自分の手で最上の現像をすることはいくらかでも救いたかったのだ。

二日前の遠足の時、彼は被友の男女学生たちの前で自信たっぷりのおみやがかな身ぶりでそのスプリング・カメラの距離、絞りを

シャッターの目盛を合せ、草深い山麓を背にずらりと二列に並んだ皆の浴せかける冗談にもひるまず、いよいよ最後のセルフタイマーをかけるのと素早く列にかえり、被友の肩越しに顔をのぞかせたのだが、実は彼は皆の方に引返す途端に不幸にも写角の内ころがっていた花崗岩のかげらにつまずき、あっと転倒してしまったので、あわてた彼は肩越しにセットレバーの方を見ていながら、それが落ちたのもはつきり見えなかつたし、またその音も聞きとれなかつたのである。加米良君は、宙にもんどりをうった強いショックで、ただ元の列にとつて返すのに懸命だつたわけだ。

まあいいや、最後の一枚だつたが、スナツプが沢山あるから

彼が、つとめてうまくいったとおもひ込むには、やはり自分にこんな救いをもとめなければならなかつたが、それはたしかにいくらかの効果があつたようである。しか

し、その不安がやや消えるとまた別の不安が重なって来るのを覚えた。
「ははははは、兄さんたら何をそんなに考え込んでるのよ」
突然、耳元で妹の巴千里のはしやいだ声がした。

「面目ない……いや、面目ないような下手な写真にしたくないと思ってるのさ」
どきまぎした兄は、カメラからフィルムを取り出しながらやと平静を装っている
「それや兄さんのことだもの、むろん焼増OKにきまつてるわ。はっはっはははは……」
「焼増？」
彼は妹の方へ向き直る。

「そうよ」
「心得てやがる……」
「手伝った報酬はちゃんとしてこんでてよ」
巴千里は、左手に毛布を握りたまま兄の眼の前に右の親指と人差指とで円をつくってみせた。
「くれても実費だけだよ、それに巴千里の分もあるだろ？」
「はほん……」

妹は、わざと軽く吐息をつき、押入の際間をふさぐ毛布をさつと張りめぐらせていた。

(二)

タンクのない加米良君は皿現像である。彼は秒時計をもちタオルをバンドにたばさむと用心深い腰つきで押入に這入っていった。急に暗がりの中に置かれた自分がたよりなくなつて安全燈のスイッチをいれると淡いその光りの下に三つのバットががすかにぼんやりと見える。しばらく眼をつぶつてみる。すると、にわかになんかだけの秘密の世界に入りこんだおもしろい感じがして、先刻までの不馴れな現像の新しい不安は消え、ひそかなよろこびに似たものさへ胸底に湧いてくる。それは、いままさに眼の前にあらわれてくる筈の現実とはおそろしくへだたりのある無感覚な法悦に近いものである。彼は急に安全燈を消してみた。すると、完全に遮光された暗室にはこの前のはじめての現像の時のようにただ黒々とした空間のひろがりを感じられるだけだつたが、そこに這入る前とはまるで打って変わった落着きを覚えた。彼は静かに両腕をたれ、軽く眼をむつたままじつとそうしている自分が、何者かの力でひろい空間の彼方にいざなわれていくような気がした。そして、それはこの間の遠足の折の広い山野を前にしての自然の悠久さにも通じるようにおもわれた。彼は、もう全く落着きをとれどして、引戸と毛布とで完全に外界とへだたれている自分ひとりのたのしさをみだされ

たくなかつた。そして、またそつと濃緑色にあからむ灯をつけると、おもむろに現像を進めていった。

(三)

「どれ！見せてよ、ね、ほかのはどうだつていいわ。わたしのだけよければ……」
定着をすませたフィルムを湯殿に運んでいく加米良君の後から、急に巴千里のそれと氣付いた声が追つて来た。

「巴千里のはみんな失敗だよ」
兄は、がっかりした妹の顔をたのしむように嘘をついてみた。と同時に集合の方の失敗らしいのがさほど気がかりにならないのを不思議に思った。

「まあ、ひどい兄さん。それじゃわたしのだけわざとしくじつたみたいじゃないの？」
「うん、わざと失敗するのも大変なことだ」
ほとぼり出る水道の蛇口の方に顔をそむけたままの格構で、彼はくくくと低い声を立てた。そして説明するかわりに裏窓にフィルムを透してみせた。妹はまだ不審そうに、はじめの方にある筈の自分の半身像を探していたが、それに氣付くと兄の背中をはずみをつけてポンとたたき思いきりその場に笑いくずれた。が加米良君はここから笑えなかつた。笑えないことこ

わりはじめていて、それを笑いにまぎらせることができなかったのかも知れない。
フィルムに見られる高原の遠足スナツプはどれも適正露出のようであつた。彼は、それをたしかめるのと同時に最後に撮った集合を幾度も繰り返して見入っていたが、不図並んでいる被友たちの前景にあるボケた自分の足らしいものが空に向つて高く突き出しているのに氣付いた。やや見上げた位置にある人々の一部は、その蔭にかくれて見えなかつた。

黙つたままの加米良君は、それを当然のことのような面持で眼を近づけてみる。と足先のあたりに見えるなだらかな高原のスカイ・ラインが空とともにおどろくほどのひろがりを見せて過つてくるのを覚えた。そして、それとは無関係とおもわれた素透しに近い傾げた時の足影が襷をたたえた奇妙な表徴のように画面の一部を占めていて、それが予想もしなかつた力で強く押しつけてくるのを感じた。圧倒されながら、それが何なのかを探し求めようとした。すると、彼は偶然につくられたものの形や、それをさまざまに想像してみようとする。不思議な思ひはじめて触れ合つたような気がして、戸惑いと親しみのいりまじつた表情でまだ微笑を残している妹の明るくつろろわらない顔をそつと見返した。

栗林写真機械製作所

ベトリカメラの製造元である弊社はカメラメーカーとして四十余年に達する古い歴史をもつて居りまして、戦前戦後を通じ、既に十数種に及ぶカメラを製作し、常に皆様より御好評を頂戴して居ります。

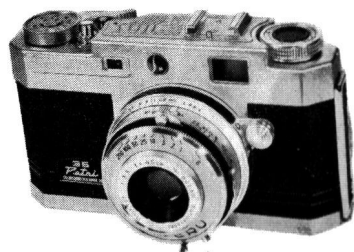
現在はその経験と伝統の優秀な技術に加え部品の製作から組立に至る一貫作業のメーカーとして、絶えず新しい設備と作業の合理化を計るとともに、多量生産主義より、性能主義に転換し、機構と性能の秀れたカメラの製作の為、全工場の施設を改善致しました。

カメラ愛好者の大多数は一般のアマチュアでありまして、御使用になるカメラも一部の高級機を除いては、アマチュア用の標準カメラが絶対的に多数要望されて居ります。弊社はこの点に鑑みまして、アマチュア用標準カメラの研究と生産に工場の機能を集中致しまして、ベトリのネームによる製品は、全国のアマチュアカメラマンにより御使用され、その実績を認められていることを誇りとするものであります。

最近カメラの傾向は次第に35判に移つてまいりましたが、弊社はセミ判、6×6判の各種のカメラを製作し、次に来るべきカメラは35判と、数年前より研究試作中でありましたが、現在期せずして各社より35判カメラが発売され、各製品ともそれぞれの特徴を挙げ、現代カメラ工業の粋をここに見るの感があつて、優るとも劣らない異色あるカメラであることを御紹介したいと思います。

カメラは写真を撮る機械であります。生活のアクセサリともなるもので、性能の良さは勿論欠くべからざる要素となりますのでこの点に留意し、カメラ操作の容易さ、ダイヤキヤストボデーの堅牢さに加えて工業デザイナーによる型の美しさを充分考慮されて居ります。

フィルムは35判パトローネ入りを使用し三六枚撮りですが、撮影枚数表示はカラーフィルム二枚撮りも有りますので、両種の表示が捲上レバーの上部にあります。フィルム



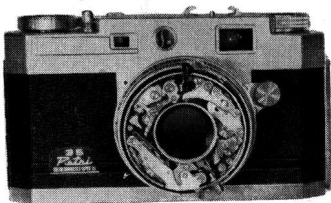
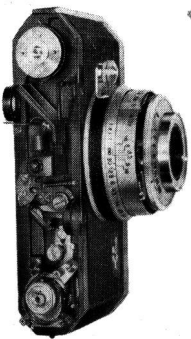
装填は、どなたでも容易にできる裏蓋を横に開く形式です。フィルムは入れたが捲上げができないという事もなく、特にここに注目して頂きたいことは、35判判カメラの速写性能の向上のため、レバー式捲上方法を率先採用してあることで、しかも従来兎角の批判のあつたレバー式捲上げが、ベトリ35判では、作動の円滑確実さに於て、比類のない良好な結果を得ております。

このレバー捲上げは、シャッターチャージと連動してしますから、撮影毎にシャッターをチャージする必要はなく、また二重露出の恐れも全くなくなり、レバー捲上げの一操作で撮影準備ができ、速写性能は格段のよさがあります。必要により二重露出を行うときはシャッターレバーを単独に手でセットすれば簡単に二重露出が出来ます。

焦点調節は直連式ヘリコイドに、一眼式距離計が連動し、焦点調節用のレバーをやや大型にしてありますから操作は楽に行え、距離計接眼部に眼を当てますと、ライトグリーン

の明るい視野の中にピンク色の透過光がハッキリと映り、内部の内面反射を防ぐため、フアインダー硝子にもコーテッドを施すなど、細部にわたつて行き届いた作業を行っていることを特に御注意頂きたいのです。焦点調節の距離計は内部に映る像が極めて明るく、合致像が視野の中央に正方形に見え、正しい距離の測定が行えます。なお特徴としてカメラの近接撮影は一・八吋(〇・五米)の至近距離まで、距離計との連動接写ができることによります。

次にカメラにおいて最も重要なレンズについて言えば、このカメラに附されているオールドは、ベトリ各種カメラで既に実験済み



でありまして、解像力の良いことは定評がございます。今回さらに改良を加え35判用に設計した口径比F三・五は焦点距離四五耗で、やや広角にしてありますのは五〇耗より画角が広く、また焦点深度もそれだけ深いので35判判カメラの使命であるスナップ撮影に最も適する様にしてあり、このため連動距離計の使用とともに如何なる場合といたどもピンボケ写真のできる惧れはございません。

それに解像力は中心部で約四〇の切込みがあり、世界一明るいレンズと云われるフジノンと同様の特殊新光学硝子を採用し、全面アンバーコーテッドは、カラー撮影に最も純な色調を再現するよう、あらゆる点に於いて細心の注意を払っております。

シャッター、カーベルは、プロンタータイプのレンズシャッターで、交換レンズの使用はできませんが、B.1(1/200)迄、セルフ

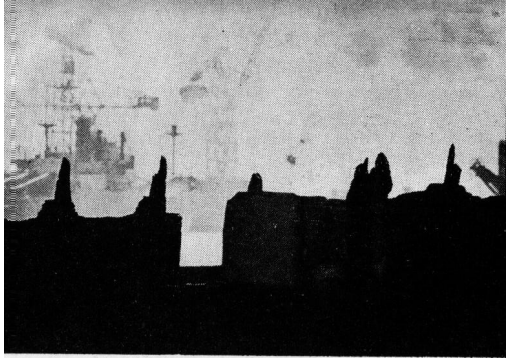
イマー付、シンクロピルトイン、接点プラグはドイツ式を採用してあります。

以上述べましたように、現在35判判カメラとしては、最も進歩と完備した機能と性能とを備えており、なお使用材料と技術の水準では、常に最高を目指していることを自負している次第であります。

最後に価格については現在35判判カメラが標準とする機能を、あらゆる点で備え、しかも三・五レンズ付で他社の同種製品と比較して価格は低廉という最大の利点を持つていることを誇りと致します。

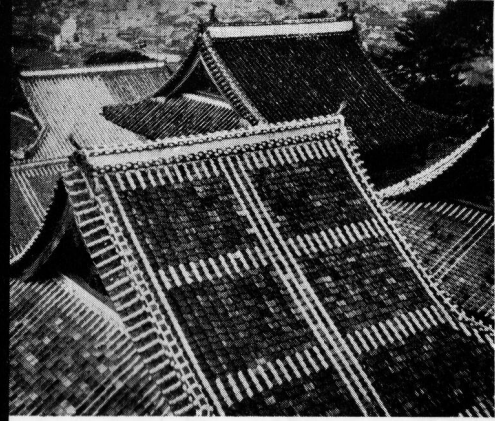
価格が安ければそれだけ性能が落ちていくのではないかと、一応懸念が有りますが弊社がモットーとする、アマチュア標準カメラ製作と云う点で、常に良心的であり、不断の努力による結果でありまして、いささかの遜色もなく、ベトリ製品御愛用者各位が立証されることを信じて、この項を終りたいと思

定価 一四、〇〇〇円



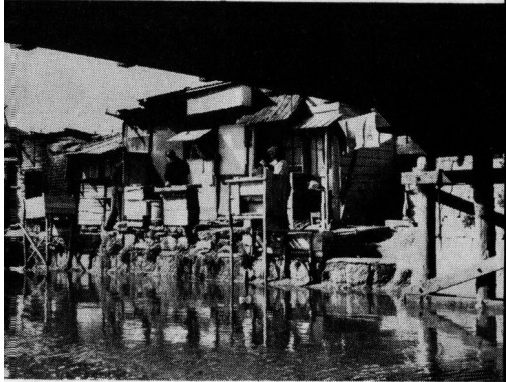
川風景 石井久夫(東京)ベトリ35

戦災を被つたらしい岩壁のシルエットと、メカニク的なクレーンの遠望とで時空を感じさせる海港に臨むあたりの雰囲気が現わされている。シルエットの形式的効果が充分でないため画面をやや上下に二分した感がある



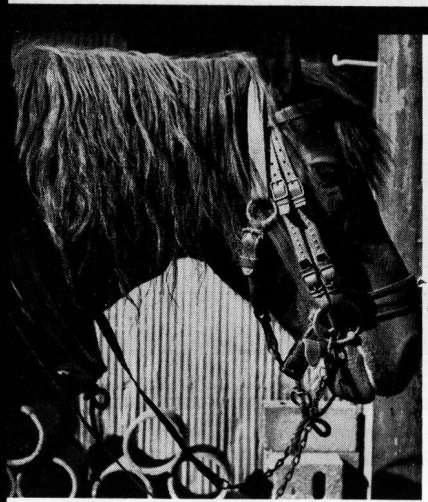
瓦の波 山田偉夫(岐阜)ベトリRF

屋根蓋の波形の反復。新しい様式の見方で懸魚の見える大伽藍のボリュームがうかがわれる。上部に街並を対比的に覗かせた意図はわかるが、この場合前方の特異な大棟をもつと大胆にとり入れ、軒の複雑な線と共に省略したい。



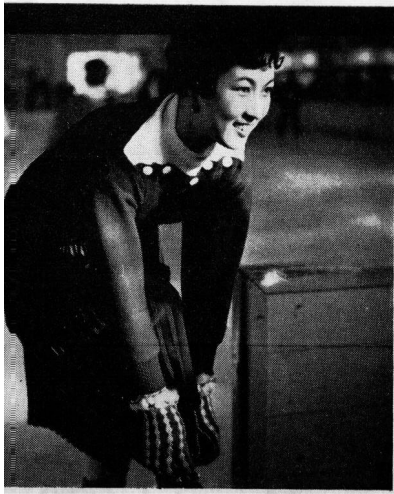
辺に住む 岡山政信(大阪)ベトリRF

住い方のこのような特色は、やはり写材として適切。黒い橋ゲタでその場所の説明も利いているが、人物の配置や姿態のほどよいチャンスが望ましい。



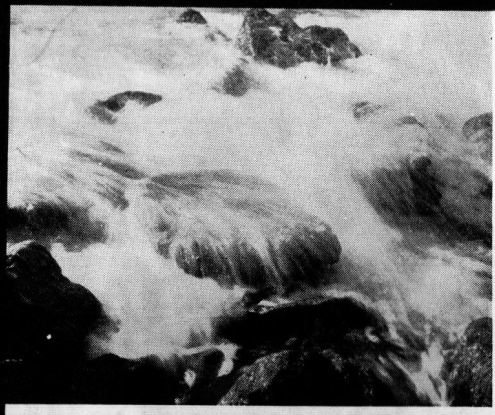
馬 塚田恒由(横浜)

克明な質感描写は、役馬へのいたわりさと呼び覚ますものがある。それは、生感と物質という背景のトタンとコンクリートなどとの対比的な効果からである。



るポーズ 井手秀雄(兵庫)ベトリRF

スケーターのたのしそうな一面。撮影技術にとらわれてか、沢山ある宮の素材の見極めと突っ込み方が足らなかった。



流れ 仲井淳(神戸)ベトリRF

むずかしい動感表現で、ここまでのきつくまでの苦心がうかがわれる。ただ、カメラぶれの故か岩の質量感がアイマイなため、大切な動感が弱くなった。

旅館着の男女が温泉マークの看板との恰好な位置におかれていて、湯の町らしい情景になつている。形式上にも確かな考慮が払われ計画性のある作画態度といえよう。

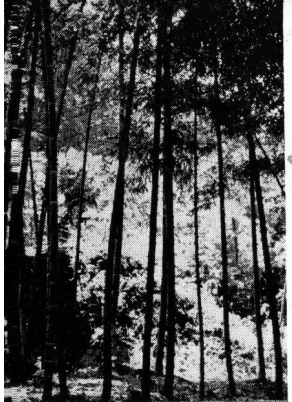


湯の町スナップ 梅沢正和(東京)ベトリスー

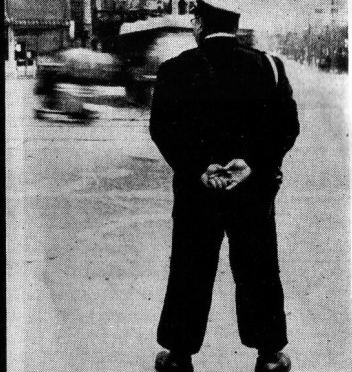
小さな島田 小島栄准(神戸)ベトリレ

今日は島田に盛装だが、彼女は遊びに夢中で裾もあらわである。振り返つた少女との関係のよさも、視線の適当なところからくるものと思われる。





白鳥 御代田又彦(東京)ベトリスーパー



街角 野口正吉(東京)ベトリレフ

自動車のスピードに注目している警官の職業意識が、動感表現とその姿態とよく現わされている。自動車の形が失われ過ぎたのが惜まれる。



車の点景人物のおかれた通路と瓦斯タンクが静かな暮色につつまれている。時刻を示す舗装路にのびている長い影も有効である。

夕暮 野口正吉(東京)ベトリレフ

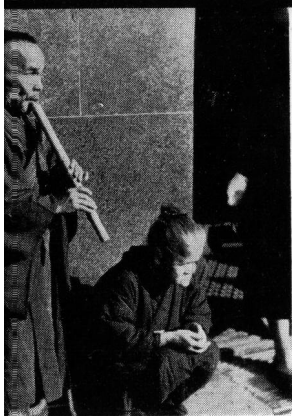


刃物屋の主人の風態と、カメラをみつめている表情とは、この職種と露天市にしか見られない独特のものであろう。それに刃物を数多くとりいれたことが効を添えている。

林 岩淵英雄(東京)ベトリRF

緑蔭と竹の伸びのよさが清潔ではあるが、近で竹そのものの美しさを現わせなかつたのだから。

すべてがよい条件の下におかれている。しかし、それが記録的なものに落ちやすいことを自戒したい。



老夫婦 岩淵英雄(東京)ベトリRF

町実だが、右端の婦人の無関心な様が充分明されれば一層主題が強調されよう。



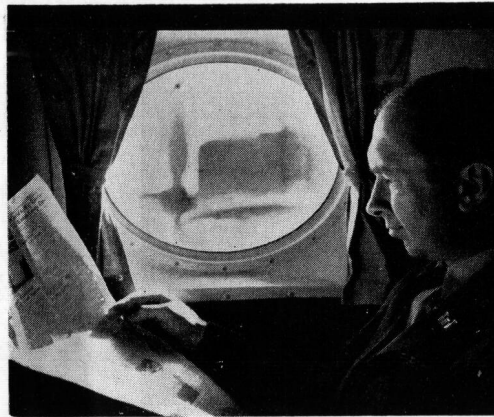
大屋根 岡山政信(大阪)ベトリRF

大棟越しに見られるビルとの新旧対象。別掲のもと共にモチーフのよさにひきかえ整理の不足が惜まれる。



野球 岡田和彦(東京)ベトリレフ

動体の瞬間的なとらえ方の妙を得ているが、相手のフォルムに対する、球審の関係性が足りなかつた。



空の旅 塩谷邦夫(福島)ベトリRF

快適な空の旅。ただそれだけのようだが、窓に見えるエンジンのひびきが規則的に感じられるようで、人物の落ち着いた表情につながっている。制限される機内撮影だが、人物の選択と特異なポーズが望ましい。



甘味な春宵が描かれているが、人工的なものの造形上の自由さは、そのためにかえって構成の失敗を招きやすい。その意味で主観的な表現には素材の選択のきびしさが要求されるのではなからうか。



婦 岩淵英雄(東京)ベトリRF

ユーモラスで、しかもリアルな素材。農婦ブレはもちろん、子供、桶、笠などの配置研究の余地がある。



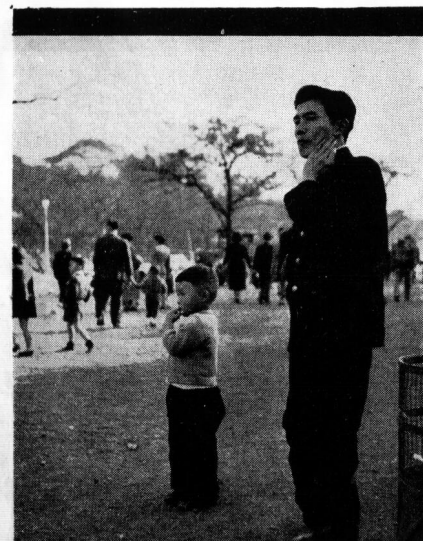
ポート・レート 石井久夫(東京)ベトリRF

手を除きバックにもつと空間がほしかつた。つくるおぬ女性の風貌に特色がある。



疎林にて 星野政治(東京)ベトリRF

清涼の気韻がただよっているが、人物の作為的と見られる扱い方の難を避けた。



兄弟 中村 勇(東京)ベトリRF

行楽日和ではないが、公園での兄弟らしくない年のへだたりのある二人の何かに眼をうばわれた瞬間のポーズが中景の人々のとりいれ方と共に生かされている。



街の露路、ジャズマン、女児の三つの要素がたくみに組み合わせた街に住む人々の生活相が見られる。左端の子供たちをもう少しのぞかせたかつた。



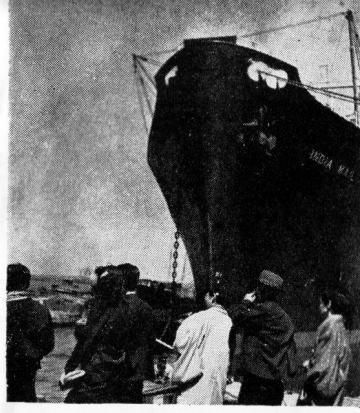
土蔵のある通り 仲井淳 (神戸) ベトリRF



ポート・レート 小島真 (東京) ベトリRF

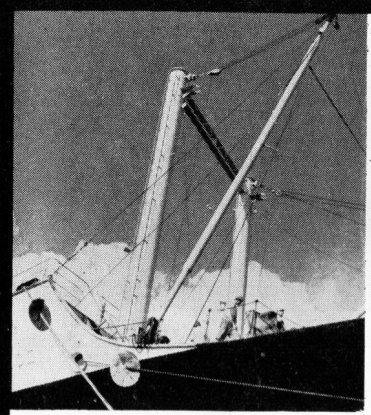
清純な表情と明暗の適配。それにバック・ライトの効果も見られる。

土蔵そのものの特色のある構造をよく現わすと共に、対蹠的な人物が写しかつた。



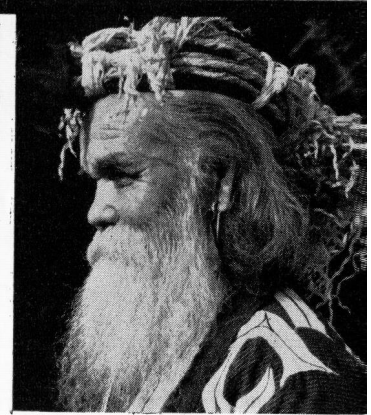
港見物 長谷見義和 (神奈川) ベトリRF

入港船に見入る地方に住む人々らしいその様子がほほえましい。



貨物船 五十嵐直栄 (大阪) ベトリRF

荷役中のデッキ。この場合巨大な船体そのものが荷船かのどちらかに重点をおきたい。



アイヌ 塩谷邦夫 (福島) ベトリRF

風俗の特徴をとらえたポート・レート。自然光にしても照明効果を図つてみるのも一法



運の開けるといふ茶碗 由良昌義 (神戸) ベトリRF



仲良し 管 健次 (東京) ベトリRF

むしろ、これが撮られた前後の二人の自由な動作のスクアップに見るべきものがあつたのではなからうか。



ガード 小島 真 (東京) ベトリRF

鉄骨の複雑な重量感。カメラを上におおつてガードだけに集中したら、別の意味で成功したのではなからうか。



六つの表情 杉野友保 (千葉) ベトリRF

個々別々の配置と表情の特色がある。多少演出らしいものが目立つのが惜まれる。



ベトリ ニュース 国産一流カメラ展 に参加

国内著名カメラ・メーカー二十七社共催の「国産一流カメラ展示会」は、去る五月十四日から六日間、東京八重州口大丸百貨店で開催され、K・K栗林写真機械製作所では第三十番ポートにベトリフレックス、同スーパー同RF、同三五の全製品の外、適切なカメラ部品の展示を行い、好評下のベトリ三五のカメラに加えて一層社業の声価が高められた。

好評！ 国産優秀カメラ展

大丸百貨店の展示にひきつづき、東京日本橋白木屋百貨店では、五月二十一日から六月五日まで「国産優秀35耗カメラ展」が催されたが前回以上に連日多数のカメラファンの視聴をあつめた。

輸出好調のベトリカメラ

輸出産業として国家的役割を果しているカメラ工業に呼応して、K・K栗林写真機械製作所では全製品の質的向上が図られているがその成果は飛躍的な外需の増加となり、すで

第六回ベトリ・サロン

作品募集

規約

- 資格 ベトリ・カメラクラブの会員
- サイズ キヤビネ判以上
- 締切 七月二十五日(締切後の到着は隔月募集ですから次回の分として受け付けます)
- 審査 田辺良雄、宇野木敏、後藤種吉 (イロハ順)
- 賞 特選一名 賞金貳千円及記念品
- 一席一名 賞金千円及記念品
- 二席三名 賞金五百円及記念品
- 三席五名 賞金参百円及記念品
- 佳作卅名 記念品
- 発表 会報「ベトリ」第八号
- 送先 東京都千代田区神田錦町三ノ十六ベトリカメラ・サービス・ステーション内ベトリクラブ宛

編集後記

に国際水準に達し、同社では更に精度の上昇と量産に拍車をかけることとなつた。

さわやかな初夏から、いよいよ酷暑に入るが、わたくしたちには、この季節のうつりかわりがなんと愉しいことだろう。写真を愉しめるもののみが知るよるこびともいえよう。わずかな暇にも写材を求め新しい季節を探すよう心掛けた。本号は予告通りベトリクラブ写真展記念特集としたが、紙幅の都合で出品作の全部を収録することができなかった。前回の応募は第八号に併せて発表。御諒承の程を。

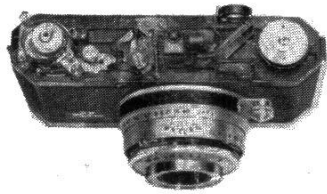
ベトリクラブ

第 7 号 昭和三十年六月十五日 印刷
 昭和三十年六月十八日 発行 (非売品)

編集人 宇野木 敏
 発行人 栗林 庸夫

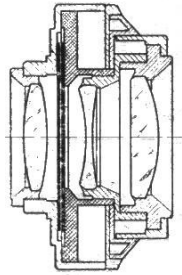
印刷所 東京都千代田区神田神保町一ノ四六 株式会社 光 社
 電話(29) 五五六〇番

発行所 東京都千代田区神田錦町三ノ一六 ベトリ・カメラ・サービス
 ステーション内ベトリカメラクラブ
 電話(29) 四六二四・六三八六番



**オリコールレンズ
(ORIKKOR LENS)**

全く新しく組合はされた、トリプレットタイプのレンズで中心周辺共に最高の（工業規格〔JIS〕の倍以上）解像力を示して居る。又アンバーコーティングは高度のカラー撮影に特に適して居ります。



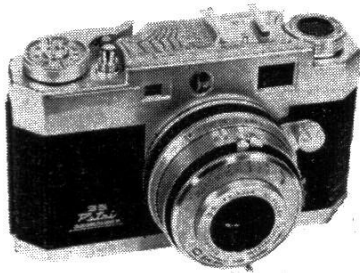
オートマテックな内面機構

フィルム捲上げと、セルフコッキングは同時に行われ、ライカ判専用カメラとして、其の精度を高めると共に、速写性を十分に生かす様、設計されて居ります。

ペトリカメラ



PETRI 35 camera



最高のレンズ

ペトリ 35 型

レンズ 新設計オリコール F3.5=45mm

シャッター カーベル B. 1秒~ $\frac{1}{200}$ 秒セルフタイマー、シンクロ内蔵ブロンタータイプ

¥ 14,000.00

- ☆連動距離計
- ☆フィルム捲上げレバー式
- ☆フィルム捲上げと、シャッターチャージは一作動
- ☆焦点調節はヘリコイド式1.8呎迄接写可能
- ☆増透処理により明るい透視ファインダー
- ☆天然色撮影に最適なアンバーコーティング及内面反射防止装置付
- ☆新工作フレッシュアプレートによりフィルム面の安定
- ☆シンクロセルフタイマー付
- ☆裏蓋開閉はワンハンド式
- ☆焦点深度露出表等々



近代人の感覚を取り入れた速写ケース